

平成29年度第1回 函館市企業局経営懇話会 会議録

【開催日時】 平成29年7月31日（月） 午後2時

【開催場所】 函館市企業局庁舎4階大会議室（アクロス十字街）

【次第】

- 1 開 会
- 2 企業局長挨拶
- 3 委員紹介
- 4 企業局管理職紹介
- 5 報告事項
  - (1) 平成28年度企業局各会計決算（見込み）について
- 6 その他
- 7 閉 会

【出欠状況】

■委員（出席14名）

（○は出席，敬称略）

所属団体	氏名	出欠	所属団体	氏名	出欠
公立ほこだて未来大学	木村 健一	○	函館市南茅部地域審議会	熊谷 儀一	○
財団法人函館地域産業振興財団	三浦 汀介	○	函館商工会議所	竹内 正幸	○
北海道税理士会函館支部	川田 博仁	○	函館水産連合協議会	吉村 健太郎	○
北海道電力株式会社函館支店	名畑 優		函館地区バス協会	渡部 浩典	○
函館市社会福祉協議会	佐藤 秀臣	○	函館湯の川温泉旅館協同組合	大桃 誠	○
函館市町会連合会	深瀬 晃一	○	一般公募	小泉 正勝	○
函館消費者協会	森元 浩	○	一般公募	山本 秀治	○
連合北海道函館地区連合会	八木橋 正典	○			

■事務局（出席14名）

川越企業局長

- ・管理部 藤田部長，松浦次長，細越総務課長，高木経営企画課長，田中経理課長，島村料金課長
- ・上下水道部 加保部長，金野次長，米田管路整備室長，丹内温泉等担当課長
- ・交通部 川村部長，高坂次長，岩田事業課長

1 開 会

2 企業局長  
挨拶

川越局長

皆様こんにちは。改めまして、企業局長の川越でございます。開催に当たりまして、一言、ご挨拶をさせていただきます。本日は、委員の皆様方におかれましては、たいへんお忙しい中、平成29年度第1回函館市企業局経営懇話会にご参集をいただきまして、誠にありがとうございます。今年度は、今年の3月に委員の皆様方から、ご意見を頂戴しながら策定をいたしました「上下水道事業経営ビジョン」ならびに「交通事業経営ビジョン」のスタートの年でございます。改めまして、三浦会長を始め、委員の皆様方には、ビジョンの策定に当たって、貴重なご意見を賜りましたこと、心から感謝を申し上げる次第でございます。

今後におきましても、効率的な事業運営、健全な経営を図りながら、市民の皆様には、安全で安心してご利用いただけるサービスを将来にわたって、安定的、継続的に提供してまいりたいと考えておりますので、委員の皆様方におかれましては、引き続きお力添えを賜りますよう、よろしくお願いを申し上げます。

本日は、昨年度の決算の概要などにつきまして、ご報告をさせていただきたいと考えており、ご意見を頂戴いたしたく思っておりますので、どうぞよろしくお願いを申し上げます。開催に当たってのご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いを申し上げます。

3 委員紹介

(新規就任委員の紹介)

4 企業局  
管理職紹介

(平成29年4月1日付け異動管理職の紹介)

5 報告事項

(1) 平成28年度企業局各会計決算(見込み)について

〈資料説明(田中経理課長)〉

――― 質疑応答 ―――

川田委員

決算資料について、お聞きいたします。減価償却費が相当大きな割合を占めているにもかかわらず貸借対照表には、いずれも減価償却累計額の記載がありません。これでは固定資産の現状というのが把握できないものですから、貸借対照表3会計につきまして、減価償却累計額を教えてください。

田中課長

まず、水道事業会計でございますが、309億9千万円となっております。次に、公共下水道会計でございますが、717億円となっております。次に、交通事業会計ですが、45億8千万円となっております。

川田委員

はい、ありがとうございました。

佐藤委員 平成28年度の数字をるる説明していただきまして、本当にありがとうございます。とても良い状態になってきているのかなというふうに思っているのですが、この中でビジョン策定時における平成28年度の数字よりも、それぞれ上向いているところがあるということについて、特に、水道だとか下水道については、人口減のことも含めてたいへん厳しいのではないかという議論があったと思うのですが、その辺、どうしてこういうふうに数字的には改善されているのかということと、市電の件なのですが、昨年の新幹線の開業についての影響がどういうふうになったのかということについて教えていただければと思うのですが。

田中課長 まず、ビジョンを上回った理由でございますが、3会計ともビジョン策定時の財源残額といいますのは、最終予算といいますか、平成28年度の2月補正後の予算に計上した金額となつてございまして、2月の補正ですと、前年の12月くらいの時点で、翌年の2月議会に提出する内容を固めなければならぬものですから、その後の1月から3か月経過した平成28年度決算との間で予算で計上した収入のほうと、水道であれば給水収益ですとか、下水であれば下水道使用料、交通であれば運輸収益などの収益が予算計上よりも上回ったということがまずひとつありまして、あと一方、支出のほうでは、予算で見込んでおりました維持管理費ですとか、そういう支出が予算計上していた額よりも下回ったということで、収益がよくなったということが、財源を上回ったということに影響をしたものでございます。

岩田課長 新幹線開業以降の状況でございますけれども、昨年の北海道新幹線開業以降、おおよそ580万人超のお客様にご利用いただきました。その多くはやはり新幹線の開業効果があったのかなというふうに思っております。OD調査自体は、ICカード導入後はおおよそつかめるようになったのですが、感覚として市内利用のほうは横ばいでございますので、観光需要というものが多くみられて、この580万人というお客様の利用に至ったものだというふうに思っております。

山本委員 水道事業ですけれども、売電事業の維持管理費と電力販売収益がほとんど同じですよ。そうすると、維持管理のほうが今後どんどんかかっていくと思うのですが、売電事業として今後利益見込めるのですか。

加保部長 ただ今のご質問で売電の収入と費用の部分、同額ということで、逆に将来的に増えるのではないかなというふうなご指摘、ご質問ですが、資料にはコンマ億単位の単位で表しておりますが、収入のほうを上回っており、たしか2千7百万円弱となり、費用のほう若干少ないというふうになっております。資料の数字を見るとプラマイゼロとなつてますが、売電を開始したのが去年の10月からのものですから、まだ半年間ということですが、これを1年間で見込みますと、大体当初ご説明させてもらったのですが、平均1千5百万円程度の収支が見込まれるというような状況には今ありますので、本年度1年間稼働するとその辺がもうちょっと決算で見えてくるのかなというふうには思っております。

小泉委員 公共下水道事業会計と交通事業会計ともに人件費の数字が載っておりますが、参考までに対前年度の人数の増減のデータというものは、あるのでしょうか。

田中課長 手元にある資料では、延べ人数を記載した資料でございますけれども、実際給与などを支給しました延べ人数、まず公共下水道事業ですが、平成27年度は延べ人数で672人に対し支給してございまして、平成28年度は654人ということで、延べ人数でいいますと18人減少してございます。ただ今申し上げました延べ人数は、一

月当たりの延べ人数というふうになります。

続きまして、交通事業についてでございますが、同じく延べ人数でございますが、平成27年度は817人でございますが、平成28年度は816人ということで、延べ人数にしますと1名減というような結果となっております。

小泉委員 ありがとうございます。何でこんな質問をしたかといいますと、函館市は人口が減っていている現状ですから、人件費はともかくとして、人数は増えたらまずいとか、減っても困ることはあるとは思いますが、そんなことでちょっとお聞きしてみました。ありがとうございました。

三浦会長 それでは、他に意見等ございませんようですので、これで本件は終了させていただきますと思います。

## 6 その他

三浦会長 各委員の皆様から、何かございますでしょうか。

深瀬委員 函館の水は、たいへん良い水ということで、いろいろな船舶が寄っていくと函館で給水するという事は、昔からよく聞いていましたけれども、函館の水について、米海軍の基準を満たしていないので、アメリカの軍艦が水を補給できなかったという話を複数から聞いておりますけれども、そういう事実はありますか。

加保部長 今のご質問ですけれども、記憶なのですが、過去、結構前に一度そういうようなことがありました。ただそれは、水道水そのものが基準を満たしていないということではなくて、通常、船舶給水といういい方をしていますけれども、水道の配水管から、船舶給水用の専用の管がずっと引かれて船に供給するという形をとっています。そうすると本管から船舶給水をするまでの間の管の水というのは、普段使われていない水が入っており、そのところで、残留塩素といういい方をしますが、消毒剤ですね、その濃度がちょっと低下していたということが過去にありました。それは通常どういようなことで対応するかというと、普段使われていない水を一度捨てて、綺麗な状態の水を入れるという作業を行うのですが、その時はその作業が入る前に水の検査が行われて、残留塩素がちょっと基準を満たしていないということで、補給されなかったということは聞いたことがありますけれども、その後そういったことがないよというふうで改善して対応しているというふう聞いております。

深瀬委員 ということは、まず、1点目は米海軍のそういうことがあったという解釈でよろしいかということ。それからもうひとつ、やはり今、大きな船が函館に寄港しています。それから、またさらに栈橋も数年後には、拡張されてというところもありますけれども、今はそういうことについては、もう是正されていますということでよろしいですか。

加保部長 過去そういうようなことがあったということは、ひとつの事実です。10年以上前だったことと記憶しております。今現在は、あくまでもそれは、水道水に問題があるということではなくて、供給するときの作業手順だとか、きちんと行われていると。全然問題がない水だということになっておりますので、そういった作業手順というのを守るといいますか、そういうことで対応しているというふう聞いております。

深瀬委員 わかりました。

高木課長 少し私から補足させていただきますと、水道水の基準は当時も満たしていたのですが、アメリカのその船の基準というのが、水道水の場合は残留塩素が0.1以上となっているのですが、アメリカの場合はそれよりもさらに上だったんですね。それで、その数字については教えてはいただけなかったんですけども、当時から水道水としての基準を満たしておりますので、その辺についてはご安心いただければと思います。

深瀬委員 もう一つ。この会議で何度かお話をしていた、いわゆる中高層ビルの直圧システムについて、要するに受水槽を設けないと。これは衛生管理上たいへんいいということですけども、聞くところによりますと、あまりこれが普及していないと。企業局としては、必ずしも推奨していないのではないかと、これも聞いているところなんですけども、その辺、そして実際、その規制緩和というのでしょうかね、ルールが緩和されて、どのくらいこの直圧に替わっていったのか、その数字とかも分かれば教えていただきたい。

加保部長 ただ今の中高層のビルといいますか、建築物ですね、それは直結給水ということで、これは制度導入して1年ちょっと、去年からのものですから、まだまだ何ていんでしょうか、恩恵にあずかるような大きな建物といいますか、まだ計画されていないというようなこととございます。ただ、制度導入に向けてそれよりも前からですけども、関係者等にはいろいろ説明会開いたり、導入にこういう制度がありますよというメリットを説明しております。ただ、直結給水を採用するかしないかということになりますと、あくまでも使い手側の判断が出てきます。受水槽がなくなることによるいろいろなメリットもあるんですけども、例えば断水、水道管工事で水道を止めなきゃならないとかとなりますと、水を止められると困るような営業をされている方ですとやはり受水槽は設けてもらうと。その判断は当然相手に任せているということです。あと、導入の実績ですけども、今確実な資料が手元にないですが、去年たしか1つの建物で導入したということは報告にあります。それと、何件か相談に来ているということについても報告があがっておりますので、これから新聞報道によりますと大きなホテルですとかの建設計画がありますので、そちらのほうの計画等では、これからいろいろ、建て主さんのほうで検討されて、いろいろ進んでくるのではないかなというふうに思います。

深瀬委員 これもずっと出ていらっしゃる委員の方にはまたかと言われそうですが、私、亀田川の河川のほうの委員会にも出ているのですが、また今年も雨水の中に油が混じっているということで、河川管理のほうでちょっと問題になりました。これも何年間もずっと続いていることなので、これは答弁はよろしいですけども、お願いとして、ぜひ雨水管のどこから油が混入して、河川に出ているのか、さらにその調査をお願いしたいと。かなりの期間油の流出が見られていますので、お願いしたいと思います。

それからこれもお願いですが、先日、湯の川の温泉の枯渇の問題について北海道のほうとも調査を進めているというところとございましたけれども、その調査の進捗状況で現状の見通し等、お分かりになれば後日で結構ですから、資料を出していただければありがたいなと思います。

丹内課長 ただ今ご質問ありました湯の川の源泉調査の件につきまして、北海道による源泉調査につきましては、温泉保護地域である湯の川地区内の源泉の現況を把握し、今後の保護対策の基礎資料とすることを目的としまして、今月の11日から13日までの3日間で、この地区の局所有源泉や民間が所有する源泉について、湧出量、静水位測定、使用量などについて調査したところでございます。現在、北海道で調査結果を取りま

とめているところがございます。

深瀬委員

結局、源泉水位というのが一番問題になるそうです。だから源泉の水位が、例えばポンプを止めたときにどれくらいまで水位が回復しているのかというところが経年的に見られるということが大事だそうですので、よろしくお願いいたします。

木村委員

企業局に水道事業、下水道事業と交通事業が一括化されて企業局というふうになったということだと思います。それで一定の時期が経ちましたが、それぞれの部で個々に非常に伝統のある部ですので、それぞれのエンブレムをお持ちですよ。それで、たしか伺ったところでは、巴のマークを企業局として、局とかそういったまとまりの中で使っていくことになっていったかと思います。そのあたりで、今日も名刺を頂戴していたのですが、できればそういった、これは家紋のようなものですので、あちこちでいろんな家紋を使うとおかしくなりますので、統一的に使っていらっしゃると思いますので、そのあたりのことをどういう規定で運用をされているのか教えていただきたいなと思います。これは企業コンプライアンスとして非常に重要な問題なので、そのあたりをちょっと教えていただければと思います。

藤田部長

木村委員からのご指摘の企業局に、当時、交通局、水道局とあって、それぞれ歴史あるそういう章というのを作ってきたのを企業局になったときに規程を廃止したという状況がありまして、規程とすると何もない状態になっております。そのような中で交通部におきましては電車にエンブレムというのでしょうか、必ず載せているという状態がありますけれども、水道のほうでは特に意識していることは現在ないところでございます。木村委員がおっしゃいますように象徴、エンブレム、シンボルマークとして有効に活用できるものというふうに考えておりますので、今、具体的にどういふふうにやっつけようかということとはございませんけれども、その有効方策について、今後検討してまいりたいというふうに考えております。

木村委員

いろんな自治体で合併をしたり、あとは東京都であったり、いろんな大都市でも新しく組織を改変するときには非常にご苦労されているんだと思います。ただ、非常に国内でもトップクラスに歴史のある上下水道事業、それから交通事業でございますので、国内的に見ても、それは大事に使っていただいたほうが対外的にも非常にプレゼンスが高まるんじゃないかなというふうに思っておりますので、ぜひ利用規定については、しっかりしたものを作っていただければいいのかなと思います。

三浦会長

この件よろしくお願いいたします。事務局のほうでご検討をお願いします。

川田委員

些末な話で恐縮でございますが、ICカード、せっかく入れていただいたのですが、複数の方からチャージする場所が分からない、それから電車のアナウンスでチャージするときは運転手に申し出てくれということで、申し出たんですけども、たいへん嫌な顔をされたというような意見を聞いております。それでひとつチャージする場所の広報をお願いしたいのと乗務員の教育について再教育をご検討いただければなと思います。

岩田課長

川田委員からありましたICカードのチャージの場所が分からないということで、コンビニエンスストア等々でもチャージができますので、より一層ホームページあるいは広報紙等でも、さらにアピールをしていきたいと思うところでございます。

また、乗務員に嫌な顔をされた。たいへん申し訳ございません。乗務員教育、まだまだ足りない部分があると思いますので、そういったことのないように乗務員に、もう一度指導したいと考えております。

三浦会長 他にどなたかご意見等ございますでしょうか。

<意見なし>

三浦会長 それでは私の進行はここまでとさせていただきます。進行を事務局にお返ししたいと思います。

高木課長 三浦会長、ありがとうございました。先ほどチャージの件でお話しいただいたところですが、ここで交通部のほうから、本年3月から運用開始いたしました交通系ICカード「イカすニモカ」に関わりまして報告させていただきます。

岩田課長 交通部から本年3月25日からサービスを開始いたしました交通系ICカードの導入後の状況について、ご報告をさせていただきたいと思っております。

サービス開始から現在まで、システム等にも特に大きなトラブルもなく順調に稼働しているところでございます。ICカード「イカすニモカ」の販売枚数でございますけれども、函館バス株式会社様と合わせまして、6月末現在の数字でございますけれども、約1万枚を超えたというような販売実績でございます。

また、導入後の利用実績ですが、定期券を除く運賃全体の約15%程度となっております。その内訳といたしましては「イカすニモカ」の利用は、全国交通系ICカードのうちの約35%程度で、そのほかは「スイカ」や「パスモ」などの、いわゆる関東圏のカードの利用が多くなっているというところでございます。ICカード導入以降、お客様からは整理券いらずでストレスフリーになったことや乗継割引の利便性が向上したといったお声をいただいているところでございます。

一方、運行面でも乗降がスムーズになったことから、定時運行の確保にも繋がっているところでございます。

今後でございますけれども、今年度末に予定してございます定期券のICカード化に向けて、鋭意準備作業を進めているところでございます。

懇話会委員の皆様におかれましても、ぜひ、先ほども申し上げましたけれども、コンビニエンスストアなどでもご利用いただけますICカード「イカすニモカ」のご利用をお願い申し上げます。交通系ICカード「イカすニモカ」の現在までの導入状況についての報告とさせていただきます。

高木課長 ただ今の報告に関して質問等はございませんでしょうか。

<意見なし>

## 7 閉会

高木課長 ご質問等がないようですので、以上で本日の日程はすべて終了となりますが、最後に事務局から、次回の開催日程等についてのご連絡でございます。次回開催につきましては、来年の2月を予定しております。

今年度からスタートいたしました上下水道事業経営ビジョン、交通事業経営ビジョンの進行管理について、ご協議いただきたいと思いますところでございます。

また、本日の会議録につきましては、この後、事務局にて案を作成し、後日、各委員の皆様へ郵送等でお送りさせていただき、ご確認いただく形で、作成してまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

それでは以上をもちまして、平成29年度第1回函館市企業局経営懇話会を閉会いたします。皆様、長時間ありがとうございました。